

## 第4学年 社会科学学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 ( ) 第 校時  
場 所  
指導者

### 1 単元名

「水はどこから」 教材名「水はどこから」

### 2 単元の目標

飲料水の供給は安全で安定した生活を支え、計画的な事業と人々の協力で行われることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((2))

### 3 単元の評価規準

| 知識・技能                                                                                                      | 思考・判断・表現                                                                | 主体的に学習に取り組む態度                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| ①飲料水の供給は安全で安定した生活を支え、計画的な事業と人々の協力で行われることを理解している。<br>②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。 | ①「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。 | ①水はどこからの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。 |

### 4 指導上の考察

#### (1) 単元について

「水はどこから」は、第4学年の(2)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、飲料水の供給は安全で安定した生活を支え、計画的な事業と人々の協力で行われることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、水源と使用の問いを立てるところから始め、水を支える人々の協力を説明する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には水を支える人々の協力を説明することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

#### (2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

---

---

---

### (3) 指導について

本時では「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」を中心の問いに据える。これまでに調べた資料を使って、次の比較と整理を行う。地域の水源と浄水・配水の経路を地図でたどる。浄水場の処理と検査、施設の維持の資料を使い、水を安全に届ける仕事を説明する。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。透明なら飲めるという説明には水質検査の役割を示す。ろ過実験の水を飲料水扱いしない。

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。水路や施設へ無断で入らず、調べた水を飲まない。

## 5 指導と評価の計画（全13時間）

| 次   | 時                | 学習活動                                            | 評価規準（評価方法）                |
|-----|------------------|-------------------------------------------------|---------------------------|
| 第1次 | 1～4              | ○水源と使用の問いを立てる。                                  | 知①・知②（記録・活動の観察）           |
| 第2次 | 5～7              | ○浄水と配水の経路を調べる。                                  | 知①・知②（記録・活動の観察）           |
| 第3次 | 8～10             | ○安全と安定を保つ仕事を読む。                                 | 知①・知②（活動の観察・記録）           |
| 第4次 | 11～13<br>（本時を含む） | ○水を支える人々の協力を説明する。<br>○記録を根拠に、中心の問いへの自分の説明を確認直す。 | 思①（記録を用いた説明）・態①（説明を見直す過程） |

## 6 本時の指導（13／13（配当案））

### （１）本時の目標

「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」について、資料や記録のどの事実を根拠にしたかを示し、自分の考えを説明できる。

### （２）学習過程

| 段階          | 学習活動（○主な発問）<br>・予想される児童の反応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 指導上の留意点（◎評価）                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>（ 分）  | <p>○本時で使う記録を見て、問い「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【めあて】根拠の記録を示して、自分の説明を確かめ直そう。</p> </div> <p>○一人で今の考えと、確かめたい点を書く。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この記録を使って、自分の考えを説明したい。</li> <li>・前の考えと合わないところがある。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。</li> <li>・水路や施設へ無断で入らず、調べた水を飲まない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                         |
| 展開<br>（ 分）  | <p>○これまでに調べた資料を使って、次の比較と整理を行う。地域の水源と浄水・配水の経路を地図でたどる。浄水場の処理と検査、施設の維持の資料を使い、水を安全に届ける仕事を説明する。</p> <p>○「どの部分を比べて、そう考えましたか」</p> <p>○根拠の箇所を指し示して説明し、相手の説明との違いを聞く。</p> <p>○資料から分かることと、まだ分からないことを分けて書き直す。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浄水だけでなく、水質を調べたり管を直したりする仕事も必要だ。</li> <li>・この記録のここが、そう考えた根拠になる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・透明なら飲めるという説明には水質検査の役割を示す。ろ過実験の水を飲料水扱いしない。</li> <li>・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。</li> <li>・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。</li> </ul> <p>◎思① 「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。（個人の記録と説明、交流後の修正理由から見取る。）</p> |
| まとめ<br>（ 分） | <p>○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【まとめ】飲料水の供給は安全で安定した生活を支え、計画的な事業と人々の協力で行われる。</p> </div> <p>○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。</p> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の説明に、根拠にした記録を書き足せた。</li> <li>・まだ確かめていないところは、次の問いとして残した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめは得られた記録の範囲に限定する。予定どおりの結果が出なければ条件と方法を見直し、実測結果を作り替えない。</li> <li>・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。</li> </ul> <p>◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）</p>                                                                                                       |

### (3) 板書計画

上段に問い「蛇口の水は、どこからどんな仕事を通して届くのだろうか」。左に児童の最初の考え、中央に根拠として選んだ記録や資料、右に確かめ直した説明を置く。記録には対象・条件・時期を添え、同じ観点で比較する。下段のまとめは「飲料水の供給は安全で安定した生活を支え、計画的な事業と人々の協力で行われる」。確認できた事実と残った疑問を別欄にし、実測していないことを書き足さない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

